

(7) ハエ目

選定・評価方法の概要

ハエ目は、昆虫類の中ではコウチュウ目、ハチ目、チョウ目に次いで種数が多いグループであり、日本から約 7,600 種、世界では約 12 万種が知られている。なおかつ、周極地域から熱帯地域まで、海浜から油田や氷河の下の流水中まで、ありとあらゆる環境に適応して生息している。このため、生活史は極めて多様であり、特定の環境にはそれに対応したハエ目相が見られ、環境指標性は比較的高い。

東京都から記録されたハエ目については古い記録はほとんど見られないが、平成になってからは、里山昆虫研究会（1995）、武田ほか（2000）、伊東（2003）、大和田ほか（2005）、松本ほか（2007）などのすぐれた報告が公表されており、その後も竹内ほか（2012・2013）、伊東（2013・2016）などのハエ目についてのまとまった報告が公表され、現時点で 1,479 種（東京都本土部昆虫目録作成プロジェクト、<http://homepage3.nifty.com/TKM/>、2020 年 1 月 1 日閲覧）のハエ目が記録されている。この種数は全国の都道府県の記録を見ても上位に位置しており、なおかつ前回の改定時には記録が少なかった南多摩や西多摩の記録が増加し、まだまだ不十分ではあるものの、東京都のハエ目相を俯瞰できる状況にある程度近づいていると考えられる。

今回のリストは、このような東京都のハエ目の現状をふまえて、現時点で記録されている種の中から、特定の環境との結びつきが強く比較的特徴的であり、将来減少する可能性が高いと考えられる 34 種を検討対象種とした。なお、前回の留意種のうち主要な選定理由が「良好な環境の指標」であったミカドガガンボ、ハマダラハルカ、オオイシアブ、チャイロオオイシアブ、クロベッコウハナアブ、ミドリバエについては、今回の改定で見直された留意種の選定理由には当てはまらなかったため対象外となった。

選定・評価結果の概要

評価の結果、本レッドリストの掲載種は 22 種となった。ガガンボ科からは大木の洞で幼虫が育つため良好な樹林環境が必要なジェーンアシワガガンボと良好な雑木林の指標となるウスキシマヘリガガンボを、カ科からは良好な樹林環境に生息し幼虫は他種のボウフラを捕食するトワダオオカを、クサアブ科からは生息地が限定されるネグロクサアブを、ミズアブ科からは湿地環境に見られ近年の記録が少ないコガタミズアブとミズアブを、ムシヒキアブ科からは河川中流域の砂礫河原や溪流河川の岩場に生息するモモボソヒラズムシヒキを、ハナアブ科からは良好な湿地環境に



ミズアブ

生息するカルマイツヤタマヒラタアブ、良好な樹林環境に生息するヒサマツハチモドキハナアブとハチモドキハナアブ、ケブカハチモドキハナアブ、マツムラハラブトハナアブ、良好な自然林に生息するオオナガハナアブとヨコジマナガハナアブ、良好な里山環境に生息するカクモンハラブトハナアブとフタオビアリノアブ、生息地が限定されるコブアリノアブを、キモグリバエ科からは良好なヨシ原に見られるヨシノユカシキモグリバエを、クロバエ科からは良好な林間草地に生息するショウジョウクロバエを、ニクバエ科からは海浜砂丘に生息するハマベニクバエを、区部においては生息環境が限られているため準絶滅危惧（NT）に、多摩部においては準絶滅危惧（NT）か情報不足（DD）に選定した。また、過去に記録があるものの最近の記録が全くない種として、良好な林間草地に生息するムシヒキアブ科のエダヒゲムシヒキ（1950 年に三鷹市で採れて以降記録無し）と良好な湿地環境に生息するクロバエ科のカエルキンバエ（1968 年以前に東京都から記録があるがそれ以降記録無し）を絶滅（EX）に選定した。

（伊東 憲正）

引用文献

- 伊東憲正, 2003. 狭山丘陵の双翅目 (2). はなあぶ, 15 (1) .
- 伊東憲正, 2013. 明治神宮の双翅目. 鎮座百年記念 第二次明治神宮境内総合調査報告書: 353-360.
- 伊東憲正, 2016. 八王子市史動植物目録, ハエ目.
- 松本和馬・三井偉由・鳥居隆史, 2007. 森林総合研究所多摩森林科学園の双翅目昆虫相. 森林総合研究所研究報告, 6 (1): 77-88.
- 大和田守・武田正倫ほか, 2005. 赤坂御用地と常盤松御用邸の動物相. 国立科学博物館専報, 39.
- 里山昆虫研究会, 1995. 多摩川中流域の丘陵部における里山昆虫の研究.
- 武田正倫・大和田守・友国雅章・篠原明彦・野村周平・松浦啓一ほか, 2000. 皇居の生物相Ⅲ. 昆虫, 国立科学博物館専報, 36.
- 竹内正人・笹井剛博, 2012. 東京都奥多摩町日原の双翅目—第 1 報—. はなあぶ, 33.
- 竹内正人・笹井剛博, 2013. 東京都奥多摩町日原周辺の双翅類—第 2 報—. はなあぶ, 35.

写真提供者

田悟敏弘